

學小
唱
歌
集

初
編

60

65

70

75

80

85

90





教育部省音樂取調掛
編纂

唱歌集

初編

明治四十年十一月刊行



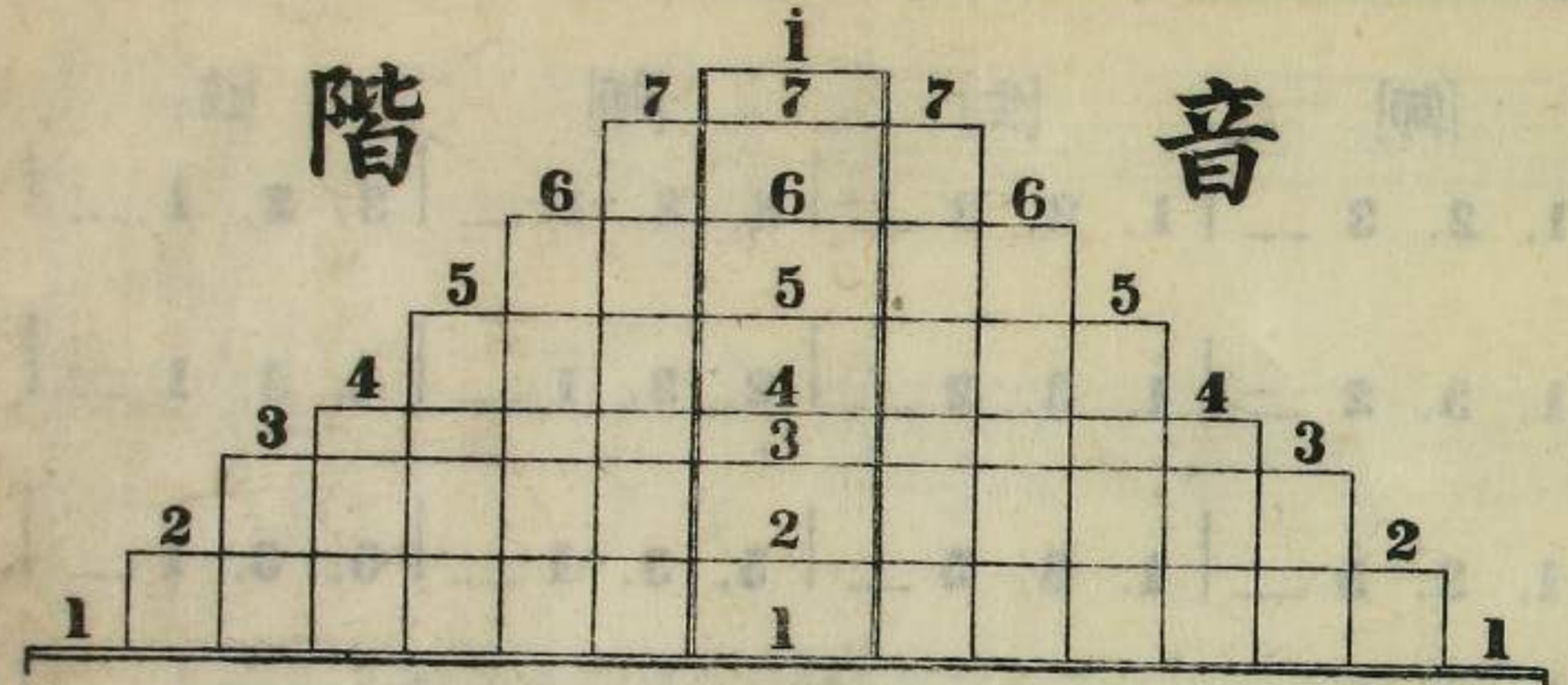
緒言

凡ソ教育ノ要ハ德育智育體育ノ三者ニ在リ而シテ小學ニ在リテハ最モ宜ク徳性ヲ涵養スルヲ以テ要トスヘシ今夫レ音樂ノ物タル性情ニ本ツキ人心ヲ正シ風化ヲ助クルノ妙用アリ故ニ古ヨリ明君賢相特ニ之ヲ振興シ之ヲ家國ニ播サント欲セシ者和漢歐米ノ史冊歷々徴スヘシ曩ニ我政府ノ始テ學制ヲ頒ツニ方リテヤ已ニ唱歌ヲ普通學科中ニ

掲ケテ一般必須ノ科タルヲ示シ其
教則綱領ヲ定ムルニ至テハ亦之ヲ
小學各等科ニ加ヘテ其必ス學ハサ
ル可ラサルヲ示セリ然シテ之ヲ學
校ニ實施スルニ及ニテハ必ス歌曲
其當ヲ得聲音其正ヲ得テ能ク教育
ノ真理ニ悖ラサルヲ要スレハ此レ
其事タル固ヨリ容易ニ舉行スヘキ
ニ非ス我省此ニ見ル所アリ客年特
ニ音樂取調掛ヲ設ケ充ルニ本邦ノ
學士音樂家等ヲ以テシ且ツ遠ク米

國有名ノ音樂教師ヲ聘シ百方討究
論悉シ本邦固有ノ音律ニ基ツキ彼
長ヲ取り我短ヲ補ヒ以テ我學校ニ
適用スヘキ者ヲ撰定セシム爾後諸
員ノ協力ニ頼リ稍ヤク數曲ヲ得之
ヲ東京師範學校及東京女子師範學
校生徒并兩校附屬小學生徒ニ施シ
テ其適否ヲ試シ更ニ取捨選擇シ得
ル所ニ隨テ之ヲ録シ遂ニ歌曲數十
ノ多キニ至レリ爰ニ之ヲ印刷ニ付
シ名ケテ小學唱歌集ト云是レ固ヨ

階音



習練階音

- [一] 1.2_ 2.1_ [二] 1.2.3_ 3.2.1_ [三] 1.2.3.4_ 4.3.2.1_
- [四] 1.2.3.4.5_ 5.4.3.2.1_ [五] 1.2.3.4.5.6_ 6.5.4.3.2.1_
- [六] 1.2.3.4.5.6.7.i_ i.7.6.5.4.3.2.1_

リ草創ニ属スルヲ以テ或ハ未タ完
 全ナラサル者アラント雖モ庶幾ク
 ハ亦我教育進歩ノ一助ニ資スルニ
 足ラント云爾

明治十四年十月

音樂取調掛長

伊澤修二謹識

[Faint background text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

The first system of music features a scale diagram on the left with notes numbered 1 through 7. To its right are two staves of music. The first staff shows a sequence of notes on a five-line staff, and the second staff shows a similar sequence with a treble clef and a key signature of one flat.

1.2, 3, 1.2, 3, 3.2, 1, 3.2, 1, 1.3, 2, 1.3, 2, 2.3, 1, 2.3, 1||

The second system consists of a single staff of music in 2/4 time, featuring a sequence of eighth and quarter notes.

1.3.5, 1.3.5, 1.4.6, 1.4.6, 6.4.1, 6.4.1, 5.3.1, 5.3.1||

The third system consists of a single staff of music in 4/4 time, featuring a sequence of eighth and quarter notes.

[師] [生] [師] [生]

1. 2. 3 _ | 1. 2. 3 _ | 3. 2. 1 _ | 3. 2. 1 _ |

1. 3. 2 _ | 1. 3. 2 _ | 2. 3. 1 _ | 2. 3. 1 _ |

1. 3. 5 _ | 1. 3. 5 _ | 5. 3. 1 _ | 5. 3. 1 _ |

1. 4. 6 _ | 1. 4. 6 _ | 6. 4. 1 _ | 6. 4. 1 _ |

[師] [生]

1. 3. 5, 5. | 1. 3. 5 _ | 1. 3. 5, 5. | 1. 3. 5 _ |

5. 3. 1, 3. | 5. 3. 1 _ | 5. 3. 1, 3. | 5. 3. 1 _ |

第一

1 カラレニホへツノラサクシ
2 どまれやどれちぐきののサネたる

3 手てナビケラハラサスス
4 なけよたてよるはせのちどま

大ルヤママニタツカルスキ三
アキヤママニワタカルスキリ

サラスラニスルモモ三チニモ
キヌキスルモモコチニモテ

第一 かをれ

一 かをれ。ふほへ。そのふろきくら。
 二 やまれ。やぐれ。ちぐほのほくら。
 三 ま祢け。なびけ。野をらのすき。
 四 なけら。あてら。かは^せ流らちぶり。

第二 春山

あきやま。あきやま。あきやま。
 ちぐらにえ。もみぢらにえ。
 まぬきする。あきやま。

楽譜

1 アガレ アガレ ヒロノノヒバリ
2 の不れ の不れ めはせのわめゆ

1 千ハヘ イハヘ キ三万ヨイハへ
2 しげれ しげれ ふたばのこまつ

1 千ヨニ 千ヨニ 千ヨマセキ三六
2 いませ いませ わのきみちよに

ワカノウムラツルユアシホニチクレタル
キシノウムラツルユアシホニチクレタル

第三 あがれ

一 あがれ。廣野のひかり。

二 のぼき。川津の若船。

第四 いそぐ

一 いはへ。きこしの代いはる。

二 志げき。あざむく小松。

第五 子代り

一 ちよき。か代もききみ。

二 いませ。わが若ちよき。

第六 わが浦

わが浦わが夕志ほみちくれば。
きよのむらぎ。あきよわら。

Musical score for 'Spring Blossoms' (第七春を花見). The score is written in 2/4 time and consists of four staves. The lyrics are written below the notes.

1	2	ハ	あ	ル	キ	ハ	は	ハ	つ	ナ	キ	ミ	メ
3	4	ミ	キ	ヨ	ラ	シ	シ	ノ	ナ	オ	キ	ム	ク
5	6	ウ	ラ	グ	マ	ヒ	の	ス	ル	キ	ワ	ナ	タ
7	8	ウ	キ	メ	マ	サ	タ	ク	ツ	ソ	モ	ノ	ラ

第七 春を花見

一 たちをは。を都え。
 二 阿茶を。はまみ。
 三 けり。都をさる。

第八 号

一 うらひす。き都け。
 二 かがり。わすれ。
 三 霧ふり。そらり。

第九 聖邊の邊よ



1 ハは サゴ コナ アシ タ
2 は ま に あ ま る ま グ さ ハ
ヨキ モミ タミ ノ マ ゴ コ 音
1 ハ ル カ ゼ ソ ヨ ラ マ ヤ ヨ ヒ ノ ア シ タ
2 や よ ひ は の や ま の は な ぎ く き り
ア キ カ ゼ ミ ニ シ ム ハ ツ キ ノ ユ フ
2 は つ き は み そ ら の っ き す む よ じ ろ

第九 聖邊の邊よ

一 聖邊の邊よ。なまびく。ちとけを。
の方乃。民乃。まゝら。

二 はまあり。あまらる。わあさごら。
考ら。みとら。かざら。

第十 春風

一 春風。そよふく。やよひのあし。
阿た風。みらむ。さつきのはふべ

二 弥生やよひハ。聖山やまの。はさけくさるあり。
さつきら。みとら。すむねら。

第十一

1 六 ル 三 ニ ユ キ マ セ ヨ シ ノ フ サ ク ラ
2 よ し の は き く ら の は な き く み や ま

ア キ 三 テ ッ ゲ マ セ タ ツ タ ノ モ 三 子
た つ た は も み ち の ち り し く な の れ

第十二

1 六 ナ サ ク ハ ル ノ ア シ タ ノ ケ シ キ
2 あ き は ぎ を ば な は な さ き み だ れ

カ ラ ル ク モ フ タ ツ コ コ チ シ テ
も と も す ゑ も つ け り

第十一 梅紅葉

一 夢見ふ。ゆきもせ。方那の梅。
あちこち。つがもを。院のなみぢ。

二 よう。野。は。は。は。花さくみやま。
あつても。紅葉も。しりしり。くちがれ。

第十二 花さく春

一 花さく。はら乃。あたみけ。花。
かをる。あも。ま。つ。つ。つ。

二 けき。萩。を。れ。も。も。た。ら。れ。
そ。ゆ。も。末。え。あ。み。も。ら。に。わ。り。

Handwritten musical score for the song '見わかせ' (見わかせ). The score is written on four staves in 4/4 time. The lyrics are written in hiragana and katakana characters below the notes.

Lyrics (from top to bottom):

見わかせを。花板。
 名はた。タタミ。
 六ノぼ。コソキ。
 のアホホ。キモリ。
 のリキキ。ミヤコ。
 ナンに。ミヤコ。
 ナンに。ミヤコ。
 ナンに。ミヤコ。
 ナンに。ミヤコ。
 ナンに。ミヤコ。
 ナンに。ミヤコ。

第十三 見わかせ

一 見わかせ。花板。
 うたまたま。みやくり。
 みちもぎ。まろ綿をぞ。
 きほひ。おろ。おろ。
 ふる。あめり。そ。
 二 みわかせ。やまべり。
 をろへ。あ。あ。
 うま。あ。あ。
 あ。あ。あ。
 おろ。おろ。おろ。
 ち。ち。ち。

第十四 柘の木こけ

1 2

マ ツ ノ コ カ ゲ ニ タ チ ヨ レ バ
 う め の は な の き ぎ し つ れ ば
 チ ト セ ノ ミ ド リ ゾ ミ ニ ハ シ ム
 の し ら に は 一 る の ゆ き つ も ぞ
 ウ メ ガ エ カ ザ シ ニ サ シ ツ レ バ
 つ ー る の け ご ろ も の き ぬ れ ば
 ハ ル ノ ユ キ コ ソ フ リ カ カ レ
 あ き の し も こ も み に は お け

一 柘の木のけみ。ももをまきむ。
 ちごをのみどりぞ。身にまむ。
 梅がえかぎに。さつきた。
 ちるのゆきさ。ふりかき。

二 うめをまもつさ。けつきた。
 かしらにまろ。ゆきはそり。
 ちけづるま。かさぬま。
 あちろ。まろそ。ちにおけ。

第十四

一 喜もやよみの。あけぼる。四方にやまを。見あ。二 喜もやよみの。あけぼる。四方にやまを。見あ。三 喜もやよみの。あけぼる。四方にやまを。見あ。四 喜もやよみの。あけぼる。四方にやまを。見あ。

第十五 喜のやよみ

一 喜もやよみの。あけぼる。四方にやまを。見あ。二 喜もやよみの。あけぼる。四方にやまを。見あ。三 喜もやよみの。あけぼる。四方にやまを。見あ。四 喜もやよみの。あけぼる。四方にやまを。見あ。

第十六

わが日の本

1894

ワキキタ カモタヒ ヒキキタ ノケツ モモタチ 一二二 トビタリ ノミタレ アホニタ セセニタ ホシのノ ミミシテ マケサキモ

カケトキ スミシキ ヒキキタ ノケツの ヒニカホ 一二二 カネリチ ケシモハ アラタメ フツタキ キミルノ ミミタチ ミタリキ

モナタミ ロツヤ コシロシ シタノ ヒヒキキ 一二二 トコチ モシモ コホホホ 一二二 マタタチ ミミシテ 一二二 ヒシタヒ トカシヒ モシモ

ハオモヒ ルラニタ タキツ ツタニ ケツタキ フハニ ヲシロヒ バホホ シシタチ リナキヒ マジノノ ヘチカキ シシタヒ

一

わがひるもやみのあさほくらけ。
 のすめる見上げあふぎこいて。
 そらうら人を。高舞びやえ。
 喜きけ々ふを。志まぬべー。
 おもひさけぶ。ほやうたは。

二

かきこへにほふ。うはぶたは。
 友来りけりや。あめつそら。
 あらそいつら。花やこや。
 きぬこらひがた。牙にこそ。

三

やまやもろた。あつらちや。
 おちあそまの。らあ乃風。
 まじうつららき。にちれこそ。

四

ふそゆるらおらた。みねらゆた。
 みやうらうらも。やまばやも。
 ひらつらさゆる。あやれそら。

第十七 蝶々

一
てみ〜てみ。葉の影にまはれ。

さ花にあい〜。梅小〜まはれ。

は〜ら花め。さのゆるけ代り。

とまきらあそび。らそよ〜まはれ。

二
おき〜。ね〜ら花す〜ん。

おき〜。ね〜ら花す〜ん。

ね〜ら花す〜ん。

あそび〜。さ〜ら花す〜ん。

1 2
 テー テー テー テー テー テー テー テー
 お き よ お き よ 林 ぐ め の す ず め
 ナ ノ ハ ニ ア イ タ ラ サ ク ラ ニ ト マ レ
 あ き ひ の ひ め の の さ し こ ん き き に
 サ ク ラ ノ ハ ナ ノ サ カ ユ ル ミ ヨ ニ
 林 ぐ ら を い て て こ ず 魚 に こ ま ず
 ト マ レ ヨ ア ソ ベ サ ソ ベ ヨ ト マ レ
 あ そ ぶ す ず め う た る よ す ず め

干支取言

第八

1. ふうき ふうき ふうき ふうき ふうき ふうき ふうき ふうき
 2. ふうき ふうき ふうき ふうき ふうき ふうき ふうき ふうき
 3. ふうき ふうき ふうき ふうき ふうき ふうき ふうき ふうき
 4. ふうき ふうき ふうき ふうき ふうき ふうき ふうき ふうき

第18 ふうき

一
 うつくした。わづこやいけこ。
 うつくした。わづこやいけこ。
 うつくした。わづこやいけこ。

二
 うつくした。わづこやいけこ。
 うつくした。わづこやいけこ。
 うつくした。わづこやいけこ。

三
 うつくした。わづこやいけこ。
 うつくした。わづこやいけこ。
 うつくした。わづこやいけこ。

小昌歌集 十三 音楽取調

第十九

チヤノーイタードノアケユクソラーニ
 チグラヲイツールーモモヤソトリハ
 アサヒノカダノーサシーソメーヌレバ
 カスミノウチーニートモヨビーカハシ
 ユメニルアアモートクオキイデーテ
 アサイチスルーミノソノオコタリーラ
 ムレツツハナニマローアソブナリ
 イサムルサマーナルハルノーアケボノ

第十九 閨の板戸

ねやのいゝやれあけゆくやう。
 あさ目のかけろ。けしめぬきを。
 ねらうをいびふ。百八十を。
 友とびうはし。
 愛みるてふも。いゝおきいで。
 むきけ。花ふ。まひあそぶさう。
 けさいねする。乃のそれおこしを。
 いさむら。はあれら。春あけが乃。

第二十章

きんも 二二二 ことば 二二二 いろな 二二二 だまき 二二二 ちのち 二二二 リモモ 二二二 カハク 二二二 七海幸お 二二二 小もの 二二二 小あま 二二二 金多し 二二二 ホソち 二二二

のき 二二二 びたな 二二二 ちのち 二二二 さまま 二二二 カハク 二二二 七海幸お 二二二 小もの 二二二 小あま 二二二 金多し 二二二 三たし 二二二 ちのち 二二二

まじく 二二二 ことば 二二二 きんも 二二二 びへい 二二二 ちのち 二二二 七海幸お 二二二 小もの 二二二 小あま 二二二 金多し 二二二 ちのち 二二二

カハク 二二二 七海幸お 二二二 小もの 二二二 小あま 二二二 金多し 二二二 ちのち 二二二 だまき 二二二 いろな 二二二 ことば 二二二 二二二 二二二

第二十章

一 ぼくらの此のうら。まがらゆゑ。
 素よむつき日。かさねけり。
 いはゆる年を。まじくを。
 あけてぞけき。あけゆく。
 こまらぬゆゑ。かまらぬ。
 かみりおらふ。ちよんづら。
 うるれば。をひやふ。
 さきくや。うたふ。
 洗く。はみ。うらぬ。
 うみやま。く。うらぬ。
 そのま。うらぬ。
 ひらり。うらぬ。
 おま。うらぬ。
 やまのうらぬ。うらぬ。
 いらぬ。うらぬ。
 けらぬ。うらぬ。

二

三

四

Second system (lines 1-2):
 第一行: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
 第二行: 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40

Third system (lines 3-4):
 第三行: 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60
 第四行: 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80

第二十一 ねむれよ子

一 わらわははあめめえはるうちり。武蔵野の
 のほみのねく。わけてはむ。袖あ葉。
 二 ね葉はたふぞ。まじろすぢ。不こけの瘡。
 はこべらせり。ちづねは五行ちづちり。
 三 ちづねは寝をれよりこやに。滑るるたえ。
 ちづね乃ひま。尋ねてはむ。わのれちり。
 第二十二 ねむれよ子

一 ねむれよ子。よくわらちぢい。ちづのみの
 父のねかせや。まあらん。ねむれよ子。
 二 ねむれよ子。よくわらちぢい。ちづのみの
 母のちぢけや。あつらん。ねむれよ子。
 三 ねむれよ子。よくわらちぢい。ちづのみの
 かはらぬみね。ちづのちぢけや。ねむれよ子。

第二十三

さきさき 二ハるの ヤカのき
 ハンはき 三ハるの サカサネ ガキガキ
 ナトチヨイ ヨキハヨ シミツ オノジメ
 一モテ イナイマ 一リセ 一
 一ハハス 一ハの ホル トル ナイ 一
 コア ケル ノハ ムル スル 一 ママ 一 デテ

第二十三 君が代

一 君が代も。ちよとにやちよとにさざれ
 いの舞とかなめて。さけのむね
 まで。うごたも。おんかきけふ。
 かぎりえあらじ。

二 きらみづらひ。ちのちの夜に。
 いし。たのむる。あらし。
 まで。かぎりちよと。みよの業を。
 ほぎを。まつる。

第二十四

おもひいづれば
三年のむら
かいらちでつ
いひおわの
あたまなまき
いづれば

第二十四 思ひいづれば

一
おもひいづれば。三年のむら。
かいらちでつ。まはきく。いれで。
いひおわの。いづれば。かき。
二
あたまなまき。かき。いづれば。
回数す。いづれば。まはきく。いれで。
わの。おもひいづれば。かき。いづれば。
を。いづれば。かき。いづれば。
三
いづれば。かき。いづれば。
おもひいづれば。まはきく。いれで。
わの。おもひいづれば。かき。いづれば。
を。いづれば。かき。いづれば。
四
あたまなまき。かき。いづれば。
いづれば。かき。いづれば。
父。あたまなまき。まはきく。いれで。
を。いづれば。かき。いづれば。

第二十五

1. カツキのニシテシラルルハナサクシミソノ
 2. カスミニカクニルルトリナクハヤシ
 3. キミガヨイハヒテイクハルマデモ
 4. カツラセヤカツラセヤウタヘヤウタヘ

第二十五 葉りにあはるる

一 かをりにあはるる。花さく法園。
 二 葉はりにあはるる。花さく法園。
 三 葉はりにあはるる。花さく法園。
 四 葉はりにあはるる。花さく法園。

二 つたげてりそふ。野のかの清水。
 三 つたげてりそふ。野のかの清水。
 四 つたげてりそふ。野のかの清水。
 五 つたげてりそふ。野のかの清水。
 六 つたげてりそふ。野のかの清水。
 七 つたげてりそふ。野のかの清水。
 八 つたげてりそふ。野のかの清水。
 九 つたげてりそふ。野のかの清水。
 十 つたげてりそふ。野のかの清水。

第二十六

1 2 3
 不美 三三 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

第二十六 河田川

一 すみぶがけらの。あさぼけらけ。
 雪をこけりみそ。のをこけり。
 水のまに。ふねうけて。
 花りあそびむ。ちりぬまり。

二 河田川東の。あたなり夜を。
 水そみそらそ。すみあさる。
 のせのまよ。あひうけて。
 月よりあそびん。あもすうら。

三 きらみぶがけらの。ふゆにそら。
 よまら白ゆ。まじをわて。
 本ら乃あそび。そなきたぬ。
 ゆきよあそびん。あまなり。

第二十七 富士山

一
ふそやにやぞ。あまける。
音家^{とらね}りゆきぞ。つそあたる。
けごへも雪^{ゆき}。たるをほそを。
そのゆたををよそひる。
あてふものえわたり。
しるのそを。いなる。

二
外国^{とくに}人^{びと}を。あふぐちあり。
わがくに人もほろなるあり。
照る日^ひも。うげ。そらゆくつよ。
けたひとやそにかがわたり。
富士てふ山^{やま}。みわたり。
しるのそを。いなる。

3

1 フモトニ グモゾ カカリケ ル タカ子ニ ユキゾ
2 どつらに びども あふぐな り わがくに びども

ツモリタル ハダヘハユ キコロモハクモ
やこるな ら てるひの あ げ そらゆく つき

ソノユキ クモヲ ヨソヒタル フジテフ ヤマノ
つきひと どもに あがやきて ふじてふ やまの

ミワタシ ニ シクモノ モナシ ニルモナシ
みわたし に しくもの もなし にるもなし

第二十八

1 オボロニ ニホフ ユフヅキ ヨ サカリニ
2 ちぐさに すだく びしのこ あ をぎのは

ニホフ モモサクラ ノドーカニ テ
そよぐ あぜのお と みにしみて

ノドケキ ミヨノ タノシミ ハ ハナサク
めにみる ものも きくもの も あはれを

カゲノ コノ マト 井 コノウタ ゲ
そふる あきのよ や つきのよ や

第二十八 光る

一 ちかえりいりふ。夕げふり
けいしんしんいほふ。もはらら。

花さくまげのころまやわな。

この宴 團樂

二 ちかえりいりふ。むしの都。

ちかえりいりふ。むしの都。
ちかえりいりふ。むしの都。
ちかえりいりふ。むしの都。

あをきをそらる。あたら夜や。
つよのよや。

第二十九

1 2

アミふ 2
メメた
ツクの
ユミを
ニニを
ニニ
オホの
ホきし
ニマ
ヤタ
ハキ

アタ
レル
ハホ
テヒ
ニニ
ニマ
クマ
リシ

カミ
ニニ
クシ
エレ
コニ
ニニ
ソツ
イマ
ニニ
マウ
ノル
ヨシ
ニニ
チシ

カタ
ニニ
マキ
ニニ
ドミ
ニニ
ノマ
ニニ
ケマ
ニニ
シマ
ニニ
リシ

第二十九 雨落

一 雨落ふ。おふくやハあきけはてまあり。
みめぐくに。民草ハ。うるほひみけり。
かくてこそ。今世を。かまごのくづり。
みまらにも。ゆるるまで。たもみちぬち。

二 飢ゑくえ。ちたまご。民を。やあつと。
身にいへて。かこくを。おほほまあり。
あらしうつ。冬の夜。ぬきたまひさる。
大法衣の。ひつき。その法。いゝるあひき。

第三十

メま アひ テて テえ ハせ アレき アハ の 井む ヤき 三よ の マゆ タふ

ドま レの けば ぐる シきを トを イみ ハを サせ ヌゼ ツの へる サも

ツ和 タに ハろ ヒろ ハこ ギこ ニみ ノす ドも カお ノを 三ろ タた

ルシ ケひ ニたま レた ハせ ラお アぬ ーア ゾー ニも フリニ ケみ

第三十 玉の岩居（みやかのいわい）

一 玉此みやわをもあまをそへ
 雨さへ流さへいそ急ぐれど
 民乃かまごのいらぎほひそ
 ちう烟もぞあ〜んそよたる

二 冬も春さむの月さえて
 隙ひまりうせさ身きたるづら
 民をおほほほみうらうら
 大津衣やぬおんみこころせ〜んそひ

第三十一

1 ヤ マ ト ナ デ シ コ サ マ ザ マ ニ
 2 の を の ろ ぐ き の い ろ い ろ に

オ ノ ガ ム キ ム キ サ キ ス ト モ
 和 の ろ き ま ぎ ま さ き き ぬ と も

オ ホ シ タ テ テ シ チ チ ハ ハ ノ
 和 ほ し た て て し あ の つ ち の

ニ ハ ノ ヲ シ ヘ ニ タ ガ フ ナ ヨ
 つ ゆ の め ぐ み を わ が ず る な よ

第三十一 大和撫子

一

やまのやちでし。さむぐり。

おれがむきく。さたぬと。

おろしあてし。ちけり。

なをへに。たぐふた。

二

おろのち草花いろ。

おれがけむぐ。さたぬと。

生きたてし。あめはら。

はちめぐり。あするた。

第三十二



一 野邊乃々々木々々。二 義やいふそんを。三 人乃々々乃。四 ひやのうろの。

第三十二 五律の歌

一 野邊乃々々木々々。二 義やいふそんを。三 人乃々々乃。四 ひやのうろの。

二 義やいふそんを。三 人乃々々乃。四 ひやのうろの。

三 人乃々々乃。四 ひやのうろの。

四
同續き

カ三ノカクセルヒメコトモ
つきひとと一もにあめつちの
サトリエラルルサマミレバ
めぐまエたおはぬせまみれば
チトイフモノハヨノナカノ
しむておものをはよのなあの
ヒトノココロノダカラナ
ひどののころのまもせな

同續き

四
神乃藏せし。秘事え。
はやり得らる。さみれを。
智とふそるを。世の中の。
人れらるの。愛あり。

五
月日と共ふ。あ免はらる。
循環多ぶをぬ。さまたみきた。
信てふそるを。せらる中乃。
人れらるの。守あり。

第三十三

フ シ シン アー リ クン シン ギ ア リ

フ フ ベ ッ ア リ

チ ヲ エ ウ ショ アー リ シ ヲ シン アー リ

第三十三
五倫の歌

父子親あり。君臣義あり。
夫婦別あり。長幼序あり。
朋友信あり。

明治十四年十月出版届

文部省藏版々權所有

那方...
夫...
父...

明治十四年十一月二十四日出版届

定價金八錢